



本校では、地域に住むお年寄りで構成する「いぶきの会」との交流を続けています。春にはジャガイモやニンジン、枝豆などの種まきや苗植えを行い、秋には作物の収穫といももち作りなどの活動と一緒に進めています。郷土の豊かな自然や特産物の成長に触れ、地域の方との体験活動を通してふるさとを愛する心や感謝の気持ちを育んでいます。
(美深町立美深小学校)

No. 127 (平成 29 年 11 月 1 日)

おもな内容

ページ

随 想	1
教育講演会	2
第16次研修事業計画策定に向けて	3
研修講座寸描	4 - 8
心に残る授業 その76	8
資料室紹介	8
出前講座寸描	9
出前講座紹介・Webサイト紹介	10
受講後アンケートのお願い・機器の貸出について	10
研究室だより「今、研究室では」	11
パソコン実技研修講座の紹介	12

随 想

情報革命と教育



上川教育研修センター組合教育委員会

教育長 赤岡 昌弘

(旭川市教育委員会 教育長)

最近、天気、気になるニュース、本や会話の中で出てきた単語など、ちよつとしたことでもすぐに手持ちのスマホで調べている自分に気付く。スマホの中の情報は、玉石混濁だが、本気で駆使すれば、最先端の知識や人に簡単にアクセスすることも可能だ。

実際、発展途上国の若者たちは、そうやって地理的、経済的な条件を克服し、世界最高峰の知やノウハウを得ている者も多いという。

今日のスマホの世界的な普及は、ほんの十年前には、誰も予想できなかった変化だが、過去十年より、今後十年の情報技術の進化の方が、はるかに速くなるという。ましてや、変化がさらに加速する二十年、三十年、四十年後の社会状況となると、ほとんど予測が付かない。

二〇四五年には、人工知能が人類を超える(技術特異点)とされ、今の小学生が四十代の中年になる頃には、今はない職業に就く割合が六十五%を超えるとも言われている。

現代が、産業革命や市民革命以来、三〇〇年ぶりの「激動の時代」にあるとされる所以である。

そうした中で、今の子どもたちは医学の進歩もあり、二十一世紀を駆け抜け、二十二世紀まで生き抜く世代となる。

新学習指導要領では、こうした激動の時代にあつて、子どもたちが未来の創り手となるためには、知識や技能の習得だけでなく、自ら考え、人と協働し、自らを奮い立たせながら、変化を前向きに捉え、立ち向かっていくことが必要とされる。急速な技術革新や予測不能な未来を不安に思ったり、恐れたりしては、スタートラインにすら立てないということだ。

また、マニュアルに頼らず想定外を乗り越えることのできる人材や人工知能で解けない問題と向き合える人材、創造的、協働的な活動を創発し、最後までやり遂げることができる人材が未来を切り拓き、自ら未来を創ることができるといふ。

今年度の本市の教育行政方針でも「主体的に学び力強く未来を拓く人づくり」を基本方針として掲げているが、まさに、そういった資質や能力を養うことが今後の教育には求められているのだと思う。それとともに、人口減少が進む地域の生き残りという視点からは、ふるさと教育や地域への誇りを地域社会全体で育む教育も重要であり、一極集中が進む東京の価値観とはまた違う、道北地域ならではの幸福な未来を教育の力で創造することができればと考えている。

センター日誌



本校では、「生徒一人一人の深い学びを実現する指導方法の工夫・改善」を目指して校内研修を進めています。「課題」や「まとめ」を明確に示して、「わかりやすい授業」を行うため、各教科で工夫・改善を行っています。自分の考えをもって、意欲的に発表をする生徒が増えてきています。
(旭川市立愛宕中学校)

7月11日	夏季拡大研究室会議
7月26日	教育委員会会議
7月27・28日	道研連夏季所員研
7月31日～8月4日	研究室夏季集中研
8月31日・9月1日	道研連研究発表大会
11月1日	センターだより第127号発行
※ 毎週火曜日	定例研究室会議
※ 随時	研修講座講師打合せ会議

これからの道德教育

～考え議論する道德授業～



岐阜大学大学院
准教授
柳沼 良太氏

〔講演の概要〕

【なぜ、考え議論する道德授業か】

平成三十二年度から新しい学習指導要領が全面実施されていく。道德科においては、大きな指導方向の転換として、主体的・対話的で深い学びを取り入れるということになっている。これは、従来の登場人物の心情を追っていくような道德から、道德的な問題を子どもたちが主体的に考え議論するような道德へと質的に転換していくというねらいがある。すでに子どもたちが知っているような価値を教え込むのではなく、みんなで道德的な価値について考え、議論していくような展開を考えていくということである。具体的には、道德科においても問題解決的な学習や体験的な学習を取り入れていく。これからますます情報化やグローバル化が進み、社会が大きく変容していく。あと十年・二十年も過ぎないうちに、我々の仕事の半分くらいをAIがやってくれるのではないかと言われているが、そのような時代に、これからの子どもたちに身に付けてほしい資質・能力とは何かということである。人間は過去のデータだけではなく、まだ見ぬ未来のつくり手となるような資質・能力をもつことができる。それは主体的に考え判断する力であったり、あるいは文化の異なる人々と協働しながら問題を解決していく能力であったりするわけである。

道德というと、すでに分かった道德的な価値を再確認しているに過ぎないのではないか、また、小学校と中学校において、系統的・計画的にきちんと道德教育がなされているのかという疑問や、道德性の実効性というものが提起されてきたことが背景に挙げられる。

【道德に求められる資質・能力】

これからの時代、最初から答えが決まっているものを答えられないというわけではなく、答えのない問題、答えが一つではないような問題に対して、お互いに納得できるような最善解をつくり上げていく、そういった能力が求められている。また、データを集めて答えを出すだけでなく、もっと全体を俯瞰して総合的に答えを出していくような能力が求められる。さらに、今ここにある知識や技能を基にして、別の問題の場面にもそれを応用したり汎用したりすることができるよう求められる。これは各教科共通のものであるが、ただ単に道德的な価値内容を習得して終わりというのではなく、それを活用・応用できるような資質・能力を身に付けていくことである。そのための新しい指導法として、主体的・対話的で深い学びというものが提唱されてきた。

①「主体的な学び」

これからの道德授業は、子どもたちが自身が自ら考え、判断し、そして、どう行動するべきなのかというところまで考えられるようにしたい。子どもたち自身、いろいろな知識や経験をもっており、それを総動員して、どうすればよいのかを考えられるようにしていく。そのための一つの手立てとして、ワークシートや道德ノートなどを作って、そこで子どもたちが自分の考えをまとめられるようにしていく。人がどう考えたか、あるいは登場人物がどう考えたかだけでなく、自分の考えとして意見を主張していくことができるようにしていく。

②「対話的な学び」

自分の意見だけにこだわらず、いろいろな意見をお互いに提示し合ってよりよいものをつくり上げていくことが大切である。子どもたちが自分の生き方、人間としての生き方を深めていくことが一番の要であるので、誰もが主人公として話合いをしていけるようにしていく。さらには、自分と対話「自己内対話」というのも、ぜひ深めたい。昨日の自分、今日の自分、明日の自分。自分を客観的に見ていく。セルフモニタリングするということも、これからの道德では大事にしていきたい。対話的な学びというものは、自分とは違うことを言っているときに、お互いに共感し合い、お互いの意見を尊重し合い、よりよいものをつくり上げていくことである。そういった学習をすることで、信頼関係を築いたり、お互いの自己存在感を

高めたりすることが出来る。できるだけ協働的に問題を探究し、解決するという学習を中心に据えていく。大事なことは、相互理解・寛容等である。

③「深い学び」

ここのポイントとは、道德的な問題について自ら把握する、発見していく問題発見学習をしつかり行っていくことである。問題を見出したら、自分のことのように受け止め、真剣に、誠実に、切実に考えていく。何が問題か、いかにして解決可能な問題にしていけるか、ということと話し合っていく。最終的には、自己の生き方や人間としての在り方を探求していく。

【評価について】

道德科として一つの教科として成り立っていくためには、しっかりと評価をしていかなければならない。評価に関しては、各教科において三つの柱があるといわれる。

一つ目は、「知識・技能の習得」である。基礎・基本となるところは、しっかりと習得していく必要がある。それは、ある程度の知識・理解がないと考えるたり判断したりすることはできないからである。例えば、様々な道德的価値があるが「思いやり」とは何か、ということをしつかりと理解する。また、道德的な知識、参考となる様々な資料、偉人・先人の言葉、格言となるようなもの、調査・データなど様々な判断材料となるものがある中で、ある程度勉強していかないとなかなか判断がつかないということもある。道德的に判断するということは、どういうことなのか。それは常日頃、自分たちが自然にやっていることとどう違うのか、そういったことも提供することができる。

二つ目は、「思考力・判断力・表現力の育成」である。知識・理解を手掛かりとしつつ、それをいかに活用し、応用し、汎用していくかという思考・判断・表現力が求められる。今後の道德科においては、この部分が評価していく。三つ目は、「学びに向かう力・人間性」である。道德を学びたい、道德こそが自分たちの希望であるというような動機付けが大事で、自分の人生に役立っていくのか、道德の授業前後でどのように関連付けていけるか、どのようにしてよりよい社会をつくっていくことができるか、ということを含め指導していく。

【多面的・多角的な見方と 自分とのかかわり】

多面的・多角的な見方、これが今後の指導法における中心的なものになる。複数の登場人物の立場、価値が対立するときはどうするのか、ということである。また、自分とのかかわりとして自分事として考えられるようにする。この多面的・多角的な見方と自分とのかかわりが大切である。

多面的・多角的に考えることは、解決策の理由を考えるということが一般的である。道德の授業に限らず他の教科でも、まず自分はこう思う。根拠は、こうである。だから論理的に考えると、こういう主張ができる。そういうように自分の意見を、根拠を基に示すことがポイントになる。

それ以外にも、将来の結果について考える。そうしたら、結果こうなると思う、現実的にできるのか、ということを知ることが出来る。現実的に結果を考察するということが今後、道德授業においても大事になってくる。過去を振り返って将来を見通すことは、子どもたちのそれまでの経験・知識を踏まえるなど、ある程度知識や経験がベースになる。そのため、子どもがどんな経験を生かしているのか、どんな知識を生かしているのかを考え、判断し、見てほしい。さらに、自分の目指す生き方、社会の在り方を考えるようにしていくために、可逆性の原理、普遍性の原理、互惠性の原理などの視点から複数の解決策をいろいろ考えていくことが大切である。そのように考えていくことで自己中心的な考え方から、より公共的な考え方・より広いものの見方を身に付け、汎用のある多面的な見方につなげていく。

【今後への期待】

主体的・対話的で深い学びに質的転換をしていくことで、道德授業が、考え議論するようなダイナミックで深い授業になっていくということである。このようなことに学校全体で取り組むことによって、多様な学びをつくるなど道德教育が全体の要になって道德授業も機能していくだろう。

先生方には、多様で効果的な授業づくりに挑戦していただきたい。そして、よりよく生きることの喜びをお互いに実感していけるような授業づくりが日本全国に広がってほしいと祈念している。

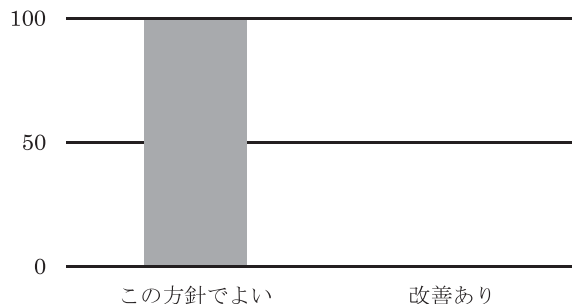
第16次研修事業計画策定に向けて

～アンケートへの御協力 ありがとうございました～

I 基本方針について

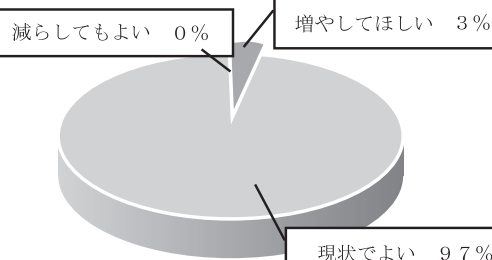
＜基本方針＞

- ① 教科指導等を中心とした講座は、「小中合同、講義（夏季休業中）と研究授業（2学期）の分離開催」とした、これまでの講座形式を継続しつつ、内容の一層の充実を図ります。
- ② 教職員の経験、職種に応じた講座設定を行い、ライフサイクルに基づく研修の場として必要な資質を中心に内容の充実を図ります。
- ③ 学校（地域）や教育研究団体等のニーズに応える「出前講座」の充実を図ります。
- ④ 2020年の学習指導要領改訂を見据えながら、講座内容の充実を図ります。

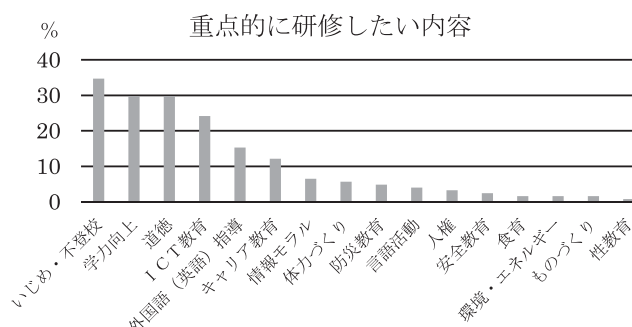


・100%の方から、「この方針でよい」という回答をいただきました！

II 開設講座について



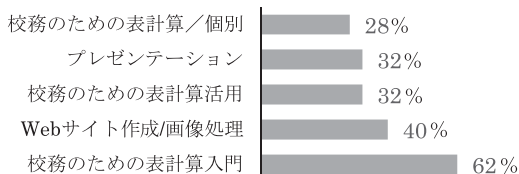
・97%の方から、「現状でよい」という回答をいただきました。



◆①いじめ・不登校, ②学力向上, ③道徳, ④ICT教育, ⑤外国語（英語）指導が、上位5つでした。今日的な教育課題や学習指導要領の改訂を意識した要望となりました。その他、ミドルリーダー育成、評価・評定、自己肯定感を高めるための指導内容等という声もお寄せいただきました。

III パソコン講座について

(1) 役目を終えたと思われる講座



(2) 新設希望の講座

- ・ネットワーク構築のための講座
- ・校内設備環境の活用や整備についての講座

- ・実際には、表計算講座には多くの方が受講され、所属校の個別課題解決に大いに参考になったという好評の声をいただいております。
- ・タブレットPCの普及が進み、授業での活用に関する講座も高いニーズが見られます。

IV 講座全般にかかわる要望など

- ・長期休業中の研修を増やしてほしい
- ・平日の講座への参加は、校内体制を考えると難しい。長期休業中に設定すると参加しやすい場合もある。
- ・日常実践の中で様々な疑問や気づきをアウトプットする機会がほしい。受講者どうして解決策を、互いに練り合えるような講座の提案をしてほしい。
- ・ICTについて、日常的な校務や授業への活用が図られるような内容を設定してほしい。
- ・出前講座は大変ありがたい。今後も校内研修の活性化のために継続をしてほしい。等

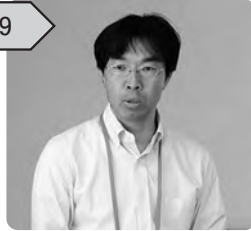
○管内小中学校・各団体合わせて125通の回答をいただきました。御多用の中、御協力をいただきありがとうございました！
○お寄せいただいた貴重な御意見を参考にさせていただき、第16次の基本構想と講座計画の詳細を作成いたします。
○今後とも、当センターに対する御意見や御要望をお寄せください。どうぞよろしくお願いいたします。

2 特別支援教育② 6 / 9

深町 友祐 北海道立特別支援
教育センター教育課
聾覚言語障がい教室研究員

中川 隆 (日章小 教諭)
黒滝 裕子 (北鎮小 教諭)
五十嵐 亨 (愛宕中 教諭)

講師Ⅱ



特別支援教育の理念、個別の指導計画の作成、指導の工夫など、大変勉強になりました。また、黒滝先生と五十嵐先生への温かなまなざしに心打たれました。ありがとうございました。

(富良野市立東小学校 豊田 未央)

講座の様子から

研修講座寸描

4 読書活動 5 / 16



子どもたちが本を読む環境づくりや、学校司書と教師の連携などについて話を聴くことができ、とても楽しい一日でした。私も教師として本のおもしろさ、読書の大切さを子どもたちに教えていきたいです。ありがとうございました。

(旭川市立高台小学校 佐藤 祐香)

講師Ⅱ

石坂 剛 (東町小 教頭)
高橋香奈子 (東光小 教諭)

5 学校経営Ⅰ 6 / 7

笠井 稔雄 北海道教育大学
教職大学院 教授

高木 司 (東神楽中 校長)
鎌田 優子 (日章小 校長)
小野寺憲治 (東陽中 校長)

講師Ⅱ



学校経営計画のスリム化、用語の精選、校長の職務とリーダーシップ、マネジメント力等を学ぶことができ、大変有意義な研修となりました。分科会では、提言に基づいた協議となり、日常の学校経営に結び付く交流でした。

(富良野市立布礼別小学校 丸山 健二)

6 学校経営Ⅱ 6 / 8



「我以外皆我師」「教頭は学校の心」である。これらの意味の重さと自覚を強く心に刻むことができました。先生方の心に火を灯す力を身に付けたいです。貴重な時間を割いて御指導くださいました校長先生方に感謝の気持ちで一杯です。

(上川町立上川中学校 越野 崇)

講師Ⅱ

中村 勝治 (当麻中 校長)
林 雅裕 (和寒小 校長)
田中 聡 (啓明小 校長)
田中 義彦 (神楽中 校長)

7 書写実技 6 / 15

矢野 敏文 北海道教育大学 旭川校 教授
 谷 芳恵 (永山小 教諭)

講師



書写の授業を参観させていただき、確かな学習規律の中にも温かい雰囲気があり、のびのびと取り組む子どもたちが印象的でした。実際の授業ですぐに使えるアイディアがたくさんあり、大変参考になりました。ありがとうございました。

(土別市立糸魚小学校 星 路子)

8 小学校外国語活動 7 / 4



教科化を見据えた現状や実践、ALTとの協働的な授業など、今後の実践に役立つ大変有意義な講座でした。児童や地域の実態を踏まえ構想することの大切さを改めて学びました。貴重な学びの場を提供いただき、ありがとうございました。

(旭川市立神楽岡小学校 鈴木恵太郎)

清水 忠明 (末広北小 教頭)
 松田 陽子 (東川第一小 教諭)

講師

学習指導上の課題を共有し、講師から助言をいただきながら複式教育の特性を生かした指導法、解決策について研修を深めました。井野先生には授業を公開していただき、間接指導の実践から多くのことを学びました。ありがとうございました。

(中川町立中央小学校 三原 彬敬)

9 複式教育 7 / 12

中嶋 弘恵 (旭川第一小 教頭)
 井野 亜紀 (雨紛小 教諭)

講師



11 幼小連携教育 7 / 27



幼小連携教育を実現するためには、まずは自分たちが日ごろ目指している保育を言語化することが大切であること、お互いの段差をなくして、連携を継続させるためには必要なことだと考える研修となりました。今後生かしていきたいと思います。

(中川町幼児センター 平川 久美)

川端 美穂 (北海道教育大学 旭川校 准教授)
 青柳 紘子 (東光小 教諭)
 芳賀 拓実 (北鎮小 教諭)

講師

12 算数・数学科指導 7/28 8/31

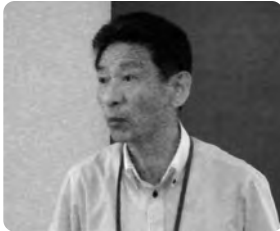
久保 良宏 (北海道教育大学 旭川校 教授)
 柴田 康德 (明星中 教頭)
 下崎 未央 (春光小 教諭)
 角 明樹 (永山南中 教諭)

講師Ⅱ



(下川町立下川小学校 川邊 宏司)

算数・数学科における問題解決的な学習を取り入れた授業の指導内容や指導方法及び評価の仕方等は、自校の研修内容に還元できる大変有意義なものでした。とりわけ「問題解決の授業」については、より理解を深めることが重要であり、理論を基に実践を具体化していく必要があると感じました。豊富な資料で分かりやすく御指導いただき、ありがとうございました。



この度は、お忙しい中このような研修を開催していただき、ありがとうございます。小・中学校の英語及び外国語活動の授業参観、そして講師の皆様の講義を拝聴し、今日の英語教員には何が必要か、学ぶことができました。上川教育研修センター様のますますの発展とこれからの英語教育の明るい未来をお祈りしますと共に、学校教育に尽力していきます。

(比布町立比布中学校 下宮遼太郎)

13 外国語科(英語)指導 7/28 9/4

講師Ⅱ

笠原 究 (北海道教育大学 旭川校 教授)
 沼倉 修 (旭川中 教頭)
 矢作かおり (啓明小 教諭)
 波多野 勉 (東陽中 教諭)

幅広い分野のことを学びました。日常で繰り返し行う業務をいかに楽しみながら行うかを学ぶことで、これを基準に他の業務も充実した執行ができるのではと、楽しみながら仕事をしています。大変実りある研修になりました。

(旭川市立神楽小学校 佐藤 佑樹)

14 学校事務実務 8/1・2

吉岡 和憲 (公立学校共済組合 北海道支部資格給付グループ主任)
 若松 彰彦 (中央中 事務職員)
 原田 和茂 (幌加内中 事務職員)
 菅原 直樹 (山部中 事務職員)
 野島ますみ (忠和小 事務職員)
 本郷 肇 (名寄西小 事務職員)

講師Ⅱ



16 理科指導 8/2・29

講師Ⅱ

安藤 秀俊 (北海道教育大学 旭川校 教授)
 佐藤 忍 (青雲小 教頭)
 福嶋 顕勝 (朝日小 教諭)
 山田 敏之 (光陽中 教諭)

小・中学校いづれも地球領域の単元を授業公開していただいた機会は、大変貴重で有意義でした。研究協議での小・中交流は新鮮で、様々な考えが生まれました。また、教育大生も参加され、発想豊かな意見を聞け、初心に返ることができました。

(名寄市立風連中学校 森 憲児)



17 道徳教育 8 / 3・29

水 上 丈 実
松 浦 修 司
平 田 考 寿
大 平 賢 治

北海道教育大学
教職大学院 教授
(旭川第5小 教頭)
(東 栄 小 教諭)
(旭川第2中 教諭)

講師



道徳の教科化へ向けて、現状や授業の実際を知ること、今後の指導への心構えができました。道徳的習慣を身に付けるには、「内面(実践力)を外化(行為)」することが大切だと学びました。御指導いただき、ありがとうございました。
(上富良野町立上富良野西小学校 伊藤 悟士)

19 学校力向上対策 8 / 4



キャリア教育において、今日的に求められること、目指すべき姿、現状における諸課題について学び、各校の実践を交流できた大変有意義な研修でした。いただいた資料も情報量が豊富で分かりやすいものでした。ありがとうございました。
(美瑛町立美馬牛中学校 竹中 大輔)

水 上 丈 実
神 林 宏 行
山 中 芳 子

北海道教育大学
教職大学院 教授
(首威子府小中 校長)
(旭川小 教諭)

講師

22 ICT活用 8 / 23

児 玉 考 弘
奥 山 直 樹

中央中 教諭
(末 広 小 教諭)

講師



教材使用場面や使い方などを実践的に学べて有意義な研修でした。説明しなくとも「ここ、そこ」と着目点を示し、焦点化が容易であり、瞬時に子どもたちの気付きを高めてくれる大変便利なものであることを実感させていただきました。
(富良野市立鳥沼小学校 長谷川 功二)

23 技術・家庭科実技 8 / 23



授業の実際、作業学習の要点、惹きつける工夫等、すぐに授業に役立つ大変有意義な研修でした。また、同教科の先生方と交流を図り親睦を深める大変よい機会にもなりました。分かりやすく御指導いただき、大変ありがとうございました。
(愛別町立愛別中学校 尾崎 敬祐)

芝 木 邦 也
後 藤 正 人

北海道教育大学
旭川校 教授
(東 明 中 教諭)

講師

24 学級活動 8 / 24

高島 伸彦 (高台小 教頭)
小出 育子 (近文小 教諭)

講師 II



特別活動におけるの学習指導要領の要点、学級活動の授業の実際等を学ぶことができ、大変有意義な研修になりました。研究討議や演習では、児童が自分事として問題を捉えることの大切さを実感しました。ありがとうございました。
(上富良野町立上富良野小学校 松村 由貴)

心に残る授業 その76



上川教育局義務教育指導班
指導主事

関 口 祐太郎

少子高齢化や労働年齢人口の減少など、人口構成が急速に変化している我が国においては、全ての子どもたちが、未来の社会づくりに貢献できるよう、社会で活躍するために必要とされる資質・能力を確実に育むことが求められております。

そのため、各学校においては全ての子どもたちが目標を達成できるよう単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した授業改善を図ることが大切です。

さて、私が参観した心に残る授業は、教師が子どもの実態に応じて指導内容を工夫するとともに、一人一人の達成状況を適切に見取る場面を位置付けた小学校第4学年算数科における「小数」の授業です。

本学級では、単元前にアンケートを行った結果、「小数の学習が苦手である」と回答した子どもの割合が

多く、「位取り」に課題があることが分かりました。

そこで、担任の教諭は、小数のしくみを習得する場面を単元の前半に位置付けるとともに、毎時間、必ず確認問題を行い、学習内容の定着状況を把握するよう工夫したそうです。

本時の授業においても、導入場面で小数のしくみについて復習する時間を取り入れていました。子どもたちは、間違いを恐れず、積極的に自分の考えを説明したり、友達と互いの考えを交流したりすることで、「位取り」の正しい方法を身に付けていきました。

本時の終末では、子どもたちが、「位のそろえ方が分かった」、「次の時間も小数の学習に進んで取り組みたい」と発言するなど、本時の学習活動を振り返りながら、次時への意欲を高めていました。

担任の教諭は、本実践を通して、子どもの実態を正しく捉え、単元のまとまりで授業改善をする重要性を実感したそうです。

私は、これからも本実践のような、確かな学力の向上に資する子どもの実態把握を生かした単元づくりや授業づくりの成果を各学校に伝えていきたいと考えています。

各種資料の御活用を！

当研修センターの1階には、各種教育雑誌や各出版社の教科書を、3階には、道内はもちろん全国各地の教育関係広報紙や研究紀要、教育雑誌のバックナンバーなどを保管しています。所蔵資料は貸出しも行っていきますので、ぜひ御活用ください。

なお、所蔵資料の目録は当センターWebサイトからも御覧いただけます



出前講座寸描

光陽中学校「主体的・対話的で深い学びを促す授業」 6 / 16



【講師：高木志磨人（春光台中 教諭）】
講話の中で「主体的・対話的で深い学びを促す授業」について、自校での具体的な取組を詳しく示していただき、今年度の校内研究でどのような実践をしていくべきかイメージが湧きました。また、普段の取組やチームとしての意識の質を高めること、単元の綿密な計画などが何より大事だと改めて考えることができました。御指導ありがとうございました。（旭川市立光陽中学校 渡辺 葵）



東聖小学校「小学校外国語活動」 5 / 2



【講師：木下貴義（東光小 教諭）】
講話の中で、これから外国語活動を行うにあたっての目標や具体的な活動例を教えていただきました。実際に、アクティビティを体験し、児童の目線に立ち活動できたことはとても貴重な体験となりました。御指導ありがとうございました。（東神楽町立東聖小学校 阿部 遥香）



朝日中学校「生徒指導」 6 / 29



【講師：井上重美（公立学校S.C.）】
学級経営において「エンカウンタ―」を用いていますが、体験する側となつて子ども達の気持ちに分かりました。「よさ」を認め合う活動が、人間関係づくりに大切であることを改めて実感しました。充実した研修をありがとうございました。（士別市立朝日中学校 木下 理恵）



士別南小学校「特別支援教育」 6 / 27



【講師：萩野里香（新富小 教諭）】
自閉症スペクトラム症やADHDなどの発達障害について、障害の「有無」ではなく「濃淡」という捉え方から、会話の仕方や環境上の工夫のような具体的な支援と対応を丁寧に教えていただきました。ありがとうございました。（士別市立士別南小学校 喜多 誠）



東川第二小学校「道徳教育」 7 / 12



【講師：北村貴志（永山小 教諭）】
講話の中では、特別の教科道徳の実施に向けての留意点や課題について、具体的に示していただきました。また、指導計画や評価についてのお話もいただき、次年度に向けての見通しをもつことができました。御指導ありがとうございました。（東川町立東川第二小学校 高橋 純二）



啓明小学校「よりよい学級づくり」 6 / 30



【講師：井上重美（公立学校S.C.）】
「Q-U」を用いた学級集団づくりの考え方を具体的に教えていただきました。学級のルールとリレーションの確立を客観的に判断できるようになりました。今後の学級経営に生かしていきたいと思います。御指導ありがとうございました。（旭川市立啓明小学校 川上 晴代）



宇園別小学校「小学校外国語活動」 7 / 24



【講師：佐藤直子（愛宕東小 教諭）】
講義では、新学習指導要領に示されている外国語の内容と指導方法を分かりやすく教えていただきました。さらに、実践的なアクティビティを体験し、楽しんで英語を習得することの大切さも実感できました。御指導ありがとうございました。（当麻町立宇園別小学校 長谷田 徹）



西神楽中学校「道徳教育」 7 / 18



【講師：内藤奏子（永山南中 教諭）】
読み物資料を用いた道徳のポイントを示していただき、授業実践に向けての理解が深まりました。物語の山場や発問を考える演習では、教員同士で意見を交流しながら進み、目標を焦点化した授業づくりの重要性を感じることができました。（旭川市立西神楽中学校 園部 桃子）



「出前講座」を御活用ください！

遠方の地域や、多忙によりなかなか研修講座に足を運ぶことができない学校等のニーズに即応し、教科指導はもちろん生徒指導、特別支援教育、パソコン実技、各種実技指導など様々な講座を実施しています。ぜひ、御活用ください。

申込は、随時受付けております。「研修講座開催要項」P 32に掲載しております「出前講座申込書」に必要事項を御記入の上、直接当研修センターへFAXで送信してください。

出前講座申込書	
研修センターにFAXで送信してください。(0142-24-2512)	
講座名	(例) 中・小・高・特別支援、教科指導、心身教育(国語科)
実施日時	月 日 時 分 (15時30分～16時30分) ※研修センターにFAXで送信してください。
会場	研修センター
研修内容	
申込校	所 属
研修講座開催要項 P32	

上川教育
研修センター

所長挨拶

施設のあらまし

組織機構図

研究室

開催要項

実施講座の様子

カレンダー

センターだより

資料室

アンケート

センター例規類集

リンク



上川教育研修センター
試そう上川の力で 創ろう上川の力で 生かそう上川の力を

- 2017.09.12 「実施講座の様子」に実施講座の一部を追加しました。
- 2017.09.06 「実施講座の様子」に実施講座の一部を追加しました。
「施設のあらまし」の内容を一部修正し、あらましと科全表のPDFのみとしました。
- 2017.08.07 「実施講座の様子」に実施講座の一部を追加しました。
- 2017.07.25 「実施講座の様子」に実施講座の一部を追加しました。

【センター Web サイト紹介】

各種研修講座・パソコン実技研修講座の情報や実施講座の様子、所蔵資料（教育関係書籍等）の紹介、センターだより「教育研修」のバックナンバーなど、当研修センターについての情報を掲載しています。ぜひ、御活用ください。

<http://kami-cen.hs.plala.or.jp/>

～受講後アンケートのお願い～

研修講座・パソコン実技研修講座を受講された皆様に一定期間をおいてのアンケートをお願いしています。講座の成果と課題を推し量り、次年度の計画を立てるための大切な資料として活用させていただきます。御協力をよろしくお願いいたします。

当研修センターのWebサイトから御回答ください。

iPad（タブレット PC） 無料貸出しの御案内

現在、当研修センターには、最新モデル2台を含め、計13台のiPadがあります。また、当研修センターは館内無線LAN環境が整っており、無料で数十台のパソコン等が接続できるアクセスポイントを設置しております。

当研修センターを利用した各種講座や各研究団体研修会等において、タブレットPCを用いた内容で実施されてみてはどうでしょうか。ぜひ御活用ください。

また、各学校や各種研究大会など無料でiPadを貸出しいたします。校内研修での利用や研究授業などに御利用いただければと思います。尚、パソコン実技研修講座での活用予定がある場合や、出前講座や一般講座等での活用予定がある場合は貸出しできませんので、その場合は何とぞ御了承ください。

※貸出しにつきましては、事前に電話にて御連絡ください。

※破損や紛失の場合は弁済していただくことになってしまいます。十分御注意ください。

第17次研究1年次

今、求められる授業に挑む！

研究主題「深い学びを実現する学習指導の在り方」の解明に向け、センター所員が研究授業を行いました。



研究員2年目
永山 聡志
中学校

中学3年 数学科「平方根」

〈授業の概要〉 平方根の乗法における計算方法の意味について理解する学習を行いました。なぜ、平方根の乗法の計算は、根号の中同士をかけられるのかについて、見通しをもつ場面、対話する場면을意図的に設定することを通して、計算方法の意味の理解を深めることを目指しました。

主体的な学びを実現するための手立て



〈課題解決の方法や手順〉

$\sqrt{a} \times \sqrt{b}$ では、「本当に根号の中同士をかけてもよいのか」という課題を設定し、解決の方法として3つの方法を示し、選択させ、課題解決に向かわせました。

対話的な学びを実現するための手立て



〈思考の活性化〉

平方根の乗法の計算方法を確実に理解させるために、除法の計算で考えさせる場面を設定しました。その際、小集団で説明し合う場面を取り入れ、理解を深められるようにしました。



研究員1年目
北光 俊綱
小学校

小学5年 国語科「大造いさんとガン」 「すぐれた表現に着目して、 物語の魅力を伝え合おう」

〈授業の概要〉 人物の相互関係や情景描写など、物語の魅力をまとめたカードを作成し、紹介し合う言語活動を行いました。教科書で学んだ力を他の物語を読むことに活用するとともに、優れた叙述について自分の考えをまとめながら、交流し合うことにより、考えを広げたり深めたりする学習を目指しました。

主体的な学びを実現するための手立て



〈課題解決の方法や手順〉

言語活動におけるモデルとして、教師が作成した魅力カードを提示し、それを分析させながら、単元全体の見通しをもたせました。

対話的な学びを実現するための手立て



〈思考の活性化〉

教科書の題材で学んだことと並行読書を生かしながら、優れた叙述を交流させることにより、学習の内容や方法を確実に理解させました。

パソコン実技 研修講座レポート

上川管内の小中学校の先生方、パソコンの操作について分からないことはありませんか？ もっと便利にパソコンなどのICT機器を使ってみたいと思いませんか？ 各種操作を学び、校務や授業に活用しませんか!!

上川教育研修センターパソコン実技研修講座では、そんな先生方からの声を伺い、上川教育マイコン研究会の会員の皆様に講師を迎え、「表計算ソフトに関する講座」「タブレットに関する講座」「画像や動画編集に関連する講座」のように三つに分けて、講座を実施しています。

まず表計算ソフト(Excel)に関する講座では、入門編と活用編に分け全部で六講座を実施しています。入門編ではExcelの基本的操作を学び、簡単な関数を使用した成績表や会計簿の作成をしていただきます。基本操作だけではなく、より便利な使い方を講師から紹介していただき、簡単にそしてスピーディーに作業する術を学ぶことができます。

応用編ではVlookup関数を用いたデータ参照を中心に、より複雑なシートの作成を行います。さらには受講者の希望によりマクロの作成を行い、作業の効率化を目指す受講者も多くいます。また、どちらのコースにも個別課題解決という講座も設けています。この講座は日頃校務で活用しているシートを講座に持参していただき、内部の構造を理解していただいたり、より使いやすく改変した



レイアウトを変更しリニューアルしたPC室

りしながら、Excelの操作を学ぶ内容となっています。

「タブレットPCに関する講座」では入門、活用それぞれ三講座ずつの実施となっています。近年タブレットPC(iPad)を利用しての授業実践が多く報告されるようになり、上川管内の先生方からもとても関心の高い講座となっており、どの講座もほぼ定員となつています。夏休み中の入門、活用それぞれの講座につきましては定員十二名のところ、どちらもそれ以上の希望者があり、会場やiPadの台数の関係でお断りをさせていただいた方もいます。内容として入門講座では、iPadを授業や校務で活用する際の情報セキュリティや危機管理についてまず学び、その後iPadの校務で使用するための初期設定(キックイング)や基本的な操作方法、appleTVを利用したミラーリングの方法やカメラアプリなどの各種アプリを体験しながら実践的に学びます。午後には受講者全員が各種アプリを活用し、授業を意識した教材作りを行い、受講者を対象とし

た簡単な授業(発表会)を行っています。活用講座では、クラウドサービスとの連携やPDFの活用方法を実践的に学び校務の効率化を図る内容と、KeynoteやPowerpointを使用したプレゼンテーションを学び、分かりやすく深い学びにつながるような教材作りを行っています。

「画像や動画編集に関連する講座」では、学校Webサイトの作成に関する講座、プレゼンテーションに関する講座、動画編集に関する講座をそれぞれ一回ずつ実施していますが、時代のニーズが変わり、操作が比較的簡単にできるようなつたため、受講者が年々減ってきています。受講者の要望を踏まえ、今後、内容の見直しを検討していきます。

次年度からは今年度までの実施状況を踏まえ、新しい内容でパソコン実技研修講座を行います。需要の高い表計算ソフトに関する内容やiPadに関する講座をさらに充実させ、リニューアルを図りたいと考えています。なお、今年度からパソコン室にはノートパソコンが三台追



今年度から追加されたiPad 2台とノートPC 3台



実技講座の様子(8/2 タブレット入門②)

加され、受講生用のパソコンが計九台となりました。これにより多くの方に受講していただけるようになりました。また、台数が増えたため、パソコン室のレイアウトも変更し、一斉講義型といたしました。講師とのやりとりもスムーズで例示用の液晶テレビも見やすいため好評をいただいています。

今年度からは、パソコン実技講座についてのみの講座案内を不定期に発行させていただきます。講座の空き状況をお知らせし、より多くの皆様に受講していただければと思っています。冬休みなど長期休業中にも各種講座を御用意しています。皆様の受講を心よりお待ちしております。

発行日

平成二十九年十一月一日

責任者
印刷所

上川教育研修センター
〒077-0003 旭川市六条通四丁目
電話 〇一六六-二四二五〇一
奥山 ゆみ子
有限会社岡本印刷

※この用紙は再生紙(古紙70%)を使用しています。